

◎教育史から社会教育まで、深い教養に立ち広く教育を

論じた春山作樹。哲学的空論と反知性主義を批判し、

実生活に役立つ教育学をめざす―初の本格的著作集！

46の別冊を収めた『春山作樹の著作集』は、教育史から社会教育まで、深い教養に立ち、広く教育を論じた春山作樹の著作集。哲学的空論と反知性主義を批判し、実生活に役立つ教育学をめざす。初の本格的著作集！

〈学術著作集ライブラリー〉

Haruyama Sakuki

# 春山作樹著作集

## 全5巻

解説・略年譜・著述一覧 川村 肇 (獨協大学教授)

丁酉 倫理講演集 第三百二輯

所謂 試験地獄

春山 作

限定 100セット

発行 学術出版会

発売 日本図書センター



著者(『現代人の修養と教育』口絵より)

此項文部省が、入學試験の方法に付いて改革案を提出され、それから延いて段々入學試験の喧しく論ぜられて居りますことは諸君の御承知の通りであります。此の問題は今日に始つたとして、かなり永い歴史を有して居る譯であります。その急を弊害がひどくなつて来ました所へ此の變りましたこともこの改革案の出された一つの原因となつたことであらうと思ひます。それに対するとして世間の議論を氣遣つて見ますと色々様々な説が出て居りますが、私から見るとこの意見にしても此の問題の範圍が餘りに狭く限られて居ることを感ずるのであります。只入學志願者選抜の方法を改竄すると云ふことばかりに重きを置いて居るやうであります。日刊新聞等でありまして、更に角人の注意を惹き易いことに眼を付ける關係上、問題の範圍を狭く限つて説を立てると云ふことは止むを得ないと思ひますが、教育雜誌等に現れたものを見ても矢張りこの選抜の方法の改竄と云ふこと以外に出て居るものは

# 特色

- ①教育学者で幅広い教養人でもあった春山作樹の初めての著作集であり、単行本6点の他、代表的な論文等60点余収録した。
- ②本著作集の構成は、第1巻は晩年の代表作『教育学講義』と「教育学論文」、第2巻は2つの単行本『王朝教育史資料』『芸術教育論』と、「教育史論・歴史的社会評論・教育時論」の諸論文、第3巻は百版以上の大ベストセラー『交際の常識』と「社会教育論・教育内容論」、第4巻は『現代人の修養と教育』、第5巻は『婦人世間道場』、「学制改革論」と回想「記憶に残った明治教育」を収録した。
- ③第5巻巻末には川村肇(獨協大学国際教養学部教授)による解説・略年譜と著述一覽を付している。

## 教育学講義

文學博士 春山作樹 著

### 第一章 社會の同化作用

先づ始めに教育とはどういふものであるかと云ふ事を話しようと思つて居ります。それで色々に分けてお話致しますが、初めに第一社會の同化作用といふ題を掲げました。さうして、其の中に教育の本質と云ふ事に就いて、お話し致します。

吾々は元來社會の中に生れて來て、吾々の一生の活動は如何なる場合に於ても社會を離れる事は出来ないのであります。社會は多數の個人が集つて出來て居るものであるが、其の社會の中に含まれて居る個人々々は段々に亡んで無くなつて行きます。然るにどうして社會其のものは永遠に續

第一章 社會の同化作用

## 各巻主要目次

### 第1巻 教育学講義 教育学論文

『教育学講義』第一章 社會の同化作用 第二章 一般陶冶と職業陶冶 第三章 文化の建設と歴史 第四章 順応と生長 第五章 教育の組織と其の型 第六章 反応の改造と人格 第七章 自我発見前及び後 第八章 家庭教育 第九章 学校教育 第十章 社会教育 附録 一 国民教育論 二 新教育の建設  
教育学論文 「普通教育」に対する疑義 「経済と教育」 「教育学上より觀たる少年少女」 「教育方法の研究に關して」

### 第2巻 王朝教育史資料／芸術教育論

『王朝教育史資料』令義解抄本 類聚三代格抄本 類聚符宣抄抄本 大学式 山家学生式 綜芸種智院式并序 清行朝臣意見十二箇条抄 日本書紀抄 続日本紀抄 日本後記抄 続日本後記抄 文徳実録抄  
教育史論 「本邦教育史研究の意義」  
歴史的社会評論 「徳川時代の礼楽論と今日の改造論」 「親鸞流行」 「国家意識」 「国民精神の一面」  
『芸術教育論』序論 第一章 本邦史上の芸術教育 第二章 教育に対して考へられた芸術の価値 第三章 芸術教育実施上の注意  
教育時論 「私学の發展を阻害する者は果たして官憲か」 「民力函養の民本的施設」 「感じ」主義 「感情の陶冶」 「所謂思想困難と教育」 「学生増加の現象及其転機」 「偽物あり御用心」 他



『芸術教育論』

### 第3巻 交際の常識 社会教育論 教育内容論

『交際の常識』第一 敬愛と親疎 第二 紹介 第三 言葉遣 第四 敬礼 第五 途上・車中の心得 第六 名刺 第七 訪問と面会 第八 服装 第九 宴会 第一〇 談話 第一一 典籍・器物 第一二 書簡 第一三 雑  
社会教育論 「社会教育学概論」 「民衆教化事業の組織及び経営」  
教育内容論 「個別教育」 「国民道德の性質を論じ家族制度の将来に及ぶ」 「話し方を本とせよ」 「普通選挙と公民道德」 「中等教育に於ける漢文科」 「郷土教育」 「公民道德」 「修身科の効果増進」 「中学校の国語教育及び外国語」 「公民科を活かす方法」 他



『社会教育論』

### 第4巻 現代人の修養と教育

『現代人の修養と教育』前編 現代人の修養／えらい人／成功の道／各自の努力／指導者の教育／農漁村の指導者／見はれずして名あり、為さずして成す／おつとめ人の心得／日本国民性の短所／病を知る者は誰か／日本好きにならざる／スポーツ精神の徹底／世間道場 後編 現代人の教育／農村の教育／新満州国に於ける本邦人の教育／国民指導原理の問題／現代教育の新傾向／社会統制としての教育／中学校の公民科／教育の生活化／教育者の常識／学制改革の問題／再学制改革案を論ず／私立大学の前途／郷土教育につきて／職業指導の本義と実施の方針



『現代人の修養と教育』

### 第5巻 婦人世間道場 学制改革論 記憶に残った明治教育

『婦人世間道場』序 婦人の天職／家庭の将来／農村の工業化と家庭／新時代の婦人の心得／地方の年中行事／話の種／儀礼／しつけ／平和の家庭／不平を抱く人々のために／空虚の感／立身出世を目標とするのは危険／教育改善の根本問題／教育の生活化と学習の実践化／家の歴史／本邦に於ける祖先崇拜の形式及意義の変遷／女子教育の過去及現在／結婚期の女性に／処女より妻となる教育／家庭に於ける言葉遣と作法／家庭教育指導の要諦  
学制改革論 「中学校の地位」 「学制改革と外国語教授」 「所謂試験地獄」 「師範大学案に關して」 「学制改革の議起るに際して当局者の決意を促す」 「大学の入学試験」 他  
記憶に残った明治教育 付解説・略年譜・著述一覽(川村肇)



『婦人世間道場』

## 略年譜

- 一八七六年(明治九) 八月一三日、大阪上町に、土族春山弟彦の次男として誕生。弟彦は当時大阪師範学校の教師をしていた。三歳頃、姫路坊主町に移る。
- 一八八二年(明治一五) 城東小学校野里分校に入学、初等小学第六級に編入。
- 一八九〇年(明治二三) 第一高等中学生で四歳上の兄生樹、死去。
- 一八九四年(明治二七) 三月、姫路中学校卒業。九月、第五高等学校入学。
- 一八九九年(明治三二) 四月、姫路中学校教師をしていた父弟彦、死去。
- 一九〇〇年(明治三三) 七月、東京帝国大学哲学科卒業。同大学院入学、教育学を専攻。このころ「教育学界」の編輯に携わる。
- 一九〇一年(明治三四) 五月、私立哲学館(現東洋大学)講師(〇四年まで)。
- 一九〇二年(明治三五) 一月、私立國學院(現國學院大学)講師(〇三年まで)。
- 一九〇四年(明治三七) 一月、私立日本法律学校(現日本大学)講師(〇四年まで)。
- 一九〇四年(明治三七) 六月、広島高等師範学校に教授として赴任。
- 一九一二年(明治四五・大正元) 一月、「教育学研究」を、文部省派遣留学生として欧米に出發。六月、ベルリンに学ぶ。
- 一九一四年(大正三) 九月、ライプツヒに転学。
- 一九一五年(大正四) 七月、ロンドンに転学。一月、ニューヨークに転学。
- 一九一九年(大正八) 二月、サンフランシスコに転学。三月、帰任。
- 一九二〇年(大正九) 七月、師範学校中学校高等女学校教員等講習会講師。一〇月、東京帝国大学文学部に教育学第三講座担当の教授として赴任。
- 一九二九年(昭和四) 四月、東京外国語学校講師。
- 一九三二年(昭和六) 九月、「王朝教育史資料」出版。
- 一九三三年(昭和八) 三月、東北帝国大学文学部兼任講師。七月、文部省主催職業指導講習会講師。九月、「芸術教育論」出版。
- 一九三四年(昭和九) 二月、世界婦人子供博覧会評議員。文部省社会教育調査委員。五月、「交際の常識」出版。
- 一九三五年(昭和一〇) 三月、文部省職業指導調査協議会委員。四月、東京帝国大学評議員。九月、「教育学講義」出版。一〇月、「現代人の修養と教育」出版。
- 一九三六年(昭和一一) 一月、東京帝国大学在職中に死去。享年五九歳。五月、「婦人世間道場」出版。

『婦人世間道場』より

### 婦人世間道場

文學博士 春山作樹 著

#### 婦人の天職

今から何千何百年立つても、男が子を養ひ育てる時代は来ない。若し願つてそんな時代があるとしても、今日女と呼んでゐるものに男といふ名が與へられ、男と呼んでゐるものに女といふ名が與へられるやうになつただけである。名前の交換で、實質の變化ではない。産まれた乳児を男が育てる習慣は母の乳の間に發見される。開明民衆の間にはない。故に男子の乳頭は退化して強に吸乳を留めてゐるばかりである。子もその胸は日中三分の一は開放されて、風にさらされてゐる。子を産み乳を吐きまてることは女子の天職である。自然に發達の具となつてゐるのである。子を産み乳を吐きまてることは女子の天職である。

(『教育学講義』より)

# 春山作樹著作集 (全5巻)

■定価 本体85,000円+税

2014年12月刊行

■解説・略年譜 川村 肇 (獨協大学教授)

■体裁 A5判、上製、個函・セット函入、総約2,490頁

ISBN978-4-284-10434-0

## ■収録内容

第1巻 教育学講義 (東洋図書 1934年)

教育学論文

第2巻 王朝教育史資料 (長崎書店 1934年)

教育史論 / 歴史的社會評論

芸術教育論 (教育研究会 1931年)

教育時論

第3巻 交際の常識 (三省堂 1933年)

社会教育論 / 教育内容論

第4巻 現代人の修養と教育 (東洋図書 1934年)

第5巻 婦人世間道場 (大日本図書 1936年)

学制改革論

記憶に残った明治教育 (岩波書店『教育』3-1 1935年)

解説・略年譜・著述一覧 (川村 肇)

おすすめ先 大学・公共図書館 / 哲学・教育(史)の研究者・学生 / 近現代史研究者など

〈学術著作集ライブラリー〉続刊予定 (順不同)

小泉郁子、小西重直、青木誠四郎、三田谷啓、奥むめお、下田歌子、蠟山政道ほか

## 好評既刊

### 木村素衛著作集 全6巻

■定価 本体110,000円+税

ISBN978-4-284-10427-2

■体裁 A5判、上製、総約3,390頁

■解説 矢野智司 (京都大学教授)

#### ■収録内容

第1巻 フィヒテ / 国民と教養 他

第2巻 独逸観念論の研究

第3巻 表現愛 / 美のかたち

第4巻 形成的自覚 / 教育と人間 他

第5巻 国家に於ける文化と教育 / 教育学の根本

問題 他

第6巻 草刈籠 / 雪解 / 魂の静かなる時に

解説・略年譜



### 谷本富著作集 全6巻

■定価 本体95,000円+税

ISBN978-4-284-10345-9

■体裁 A5判、上製、総約3,100頁

■解説 竹中暉雄 (桃山学院大学教授)

#### ■収録内容

第1巻 科学的教育学講義

第2巻 将来の教育学

第3巻 系統的新教育学綱要

第4巻 潔き立派な最期

道徳革新論 (大学講義全集 第一集)

第5巻 最新教育学大全 上巻

第6巻 最新教育学大全 下巻

解説・略年譜



### 吉田熊次著作集 全7巻

■定価 本体120,000円+税

ISBN978-4-284-00095-6

■体裁 A5判、上製、総約3,460頁

■解説 樽松かほる (桜美林大学教授)

#### ■収録内容

第1巻 社会的教育学講義

第2巻 系統的教育学

第3巻 西洋教育史概説

第4巻 本邦教育史概説

第5巻 国体明徴の方法原理 / 事変と教育

第6巻 修身教授と国民道徳

第7巻 国民学校教育論

解説・略年譜



### 岡潔集 全5巻

■定価 本体60,000円+税

ISBN978-4-284-10161-5

■体裁 A5判、上製函入り、総約1,780頁

■底本 『岡潔集』全5巻

(昭和44年 / 学習研究社)

#### ■収録内容

第1巻 春宵十話他 / 対話「全か無か」石原慎太郎

第2巻 春風夏雨他 / 対話「昭和維新」松下幸之助

第3巻 紫の火花 / 対話「萌え騰るもの」司馬遼太郎

第4巻 科学と仏教他 / 対話「人にほれる」小林茂

第5巻 私のみた『正法眼蔵』他 / 対話「美へのいざない」井上靖

全巻に保田與重郎の解説を付す。



〈発行〉

学術出版会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2

TEL 03-3947-9153 FAX 03-3947-9157

http://www.gaku-jutsu.co.jp

E-mail: info@gaku-jutsu.co.jp

〈発売〉

日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2

TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774

http://www.nihontoshu.co.jp

取扱書店